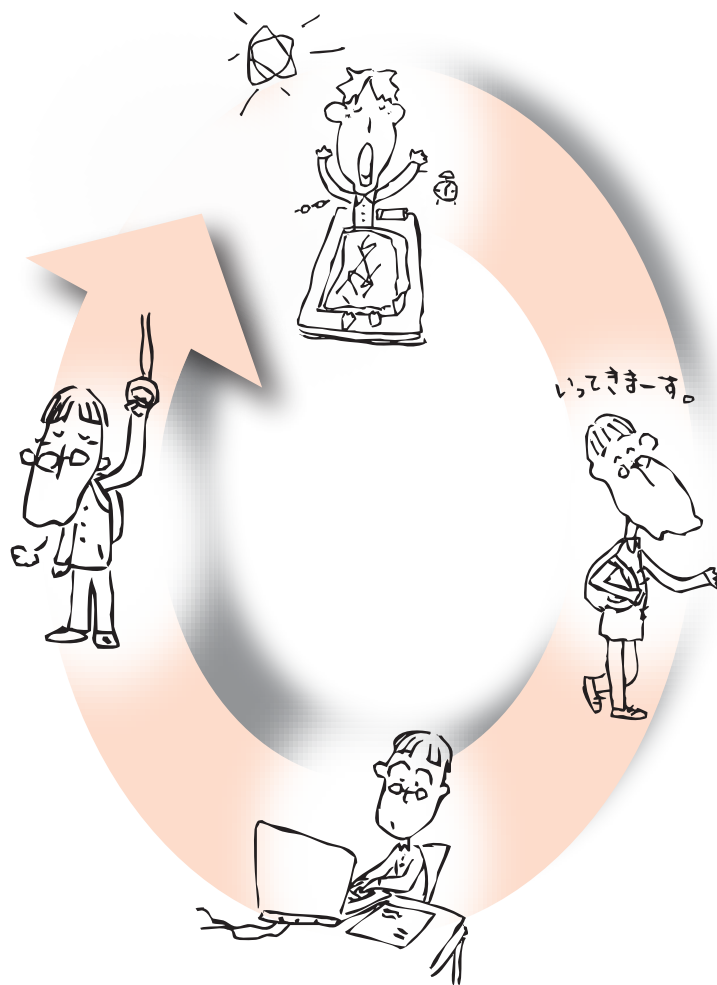


# Season 2011-2012年 冬・春号

# in the CUDO

-会員の皆様へ-

## 「おはよう」から「おやすみ」までのCUD問題



おかげさまで多くの製品や施設が分かりやすい色使いや表示に変わってきました。しかし改善されていないものや問題にすら気づかれていないものがまだまだたくさんあります。色弱者が普段どんな問題を抱えているか、どういった事が利用者全体の視点から作られていないのでしょうか。このテーマを『「おはよう」から『おやすみ』までのCUD問題』と題して“起床編”“帰宅編”“会社編”など普段の生活時間軸に沿って数回に分けてレポート致します。 (事務局)

▶ p2より

### 例えばこんなこと・・・

電車の中で読みづらい広告によく出会います。「あ、安売りの広告だったのか。SALEの文字が赤文字なのかな…見えないな…」



## マーク合格年表示のお知らせ



CUDOは2012年5月1日より新しい検証合格マークを採用いたします。新しいデザインは、CUDOの検証合格した年をマークに並記いたします。また過去にCUDO検証に合格した製品に関して、デザインなどの変更が一切ない場合はこれまでのマークを今後も引き続きお使いいただけます。詳細は改めてお知らせいたします。 (事務局)





## 認証取得

最近CUDマークを取得した事例をご紹介します。  
(順不同)

### 株式会社三越伊勢丹 “サービスガイド”

百貨店「三越」「伊勢丹」の、各店舗で利用できるサービスが記載されたパンフレットタイプのサービスガイド。(印刷物)

<http://www.mitsukoshi.co.jp/>  
<http://www.isetan.co.jp/>

### 株式会社ケアコム “病棟業務支援NICSS-R8”

ナースコール機能と共に院内情報システムとの連動性を高め、各種データの集約・表示・通知機能を持つことで病棟業務改善に寄与する。病院施設に設置される。(製品機器)

<http://www.carecom.jp/product/medical/nursecall/item01/r8/index.html>

### 株式会社エアロ・フォト・センター “高津区総合ガイドマップ”

神奈川県川崎市高津区にある区内の施設や避難場所などが分かりやすく表示された地図。区役所を始めた区主要公共施設等で配布している。(印刷物)

<http://www.city.kawasaki.jp/67/67soumu/home/takatu/kanko/guidemap.html>

### NECデザイン&プロモーション株式会社 “LaVie とことんサポートPC ～はじめてガイド～”

NECのノートPC「LaVie」シリーズの分かりやすい取扱説明書。「とことんサポートPC」購入時に同梱される。(印刷物)

<http://121ware.com/tokoton/>

### 日立公共システムエンジニアリング株式会社 “アクセシビリティサポーターZoomSight”

高齢者をはじめ視力の弱い方や色の識別の苦手な方がアクセシビリティに配慮されたホームページをより快適に利用しやすくするためのアシスタントツール。(Webツール)

<http://www.gp.hitachi.co.jp/zoomsight/>

SEASON IN THE CUDO No.8 冬・春号 2012年 4月20日発行  
発行元: NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-1-5昌平橋ビル3階  
TEL/FAX: 03-6206-0678  
発行人: 武者廣平

## news

### 企業団体賛助会員の集い「CUDフォーラム」のご案内

企業団体賛助会員の交流・親睦を深めるサロン「CUDフォーラム」を開催予定しております。

(事務局)

### 雑誌、新聞に掲載されました

朝日小学生新聞 3月30日付

<http://www.asagaku.com/shogakusei.html>



日本物流新聞 1月25日付

<http://www.nb-shinbun.co.jp/>

### 編集後記

春に三日の晴れはなし、と言いますが、雨も暖かく感じる今日この頃です。春は秋と同様に過ごしやすい日が続くためか読書に精が出ます(あくまでも個人的に)。

学生の頃に読まれた難解な「記号学」を、平易な言葉で簡単に説明している本に出会いました。読み進めると、「概念」と「物の名前」の興味深い関係性に気づかされました。記号学においては命名されていない物は存在しないという理論が一般的です。しかしこれを色の名前で考えた場合、どうなるのだろうかという疑問を持ちました。一般色覚者にとっては見分けることができ、命名出来る「色」の存在は、色弱者にとって、命名もされていない事実は認識していても、見えていない、見分けられないという状態にあります。記号学においての色弱者の認知や習慣は希有な例なのではないか・・・と思いつつ・・・舟を漕ぐ自分にビクリ。読書の春は、秋ほど深まりません。それは「ひねもすのたりのたりかな」という季節柄でしょうか・・・ (事務局)